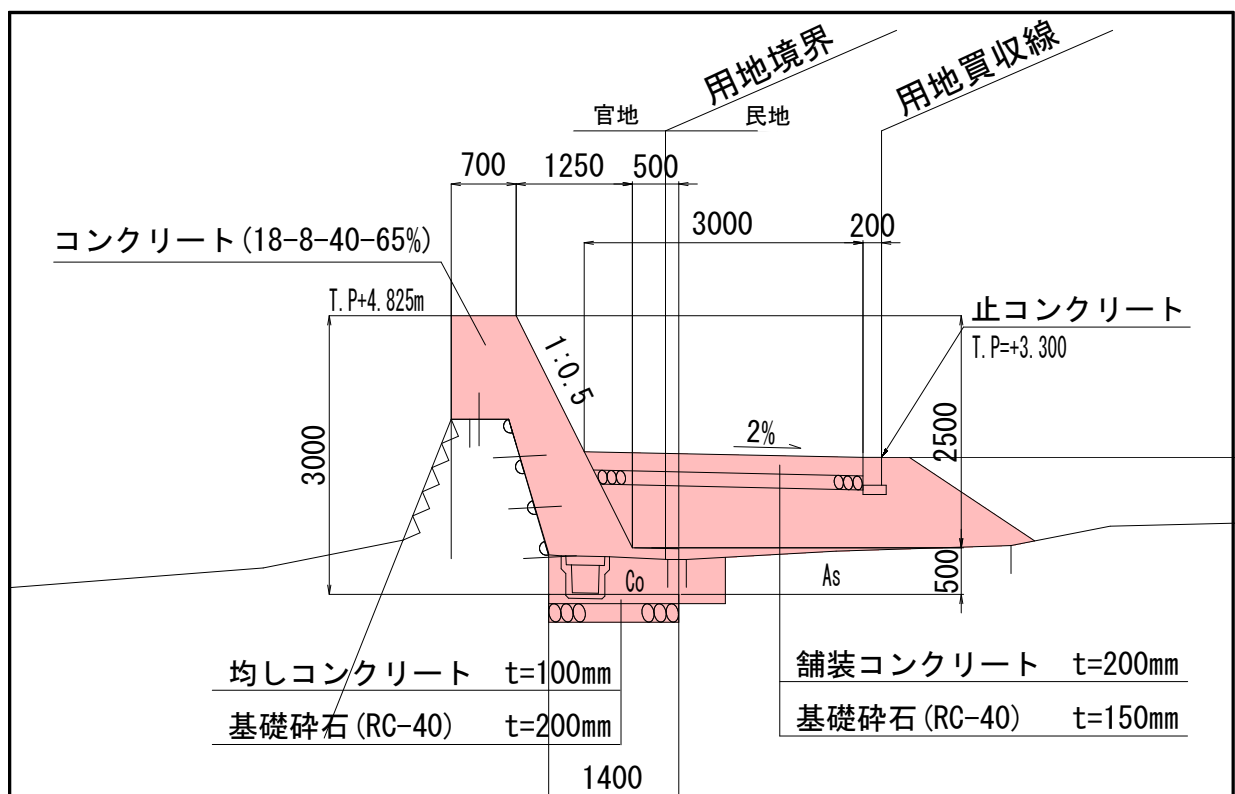


- ◎ 浪板防潮堤災害復旧工事 設計・施工の考え方
- 当初復旧高さはL 1 (T P + 6 . 4 m) を計画していたが、地元と協議を重ねた結果、要件を全て満たすことから原形復旧 (T P + 4 . 8 2 5 m) とした。
※要件：①背後に幹線道路、居住地が無い。②地元の同意 等。
- 工事の細部については、地元及びナミイタ・ラボと適宜話し合いを設け、以下のように決めた。
 - ・ 既設防潮堤前面の仕上げは化粧型枠による擬石仕上げを採用していたが、普通型枠による打ちっぱなしとした。
 - ・ 階段部及び展望部の擬木柵を取りやめ、ステンレス製の転落防止柵とした。
- 階段部及び展望部の表面仕上げは、既設パネルの再利用が難しいため、これに代わるものとして、地元及びナミイタ・ラボが提案した玄昌石のデザイン及び配列を採用した。以下に詳細を示す。
 - ・ 玄昌石デザインは半円型、1 / 4 円の2種類の組み合わせ。
 - ・ およそ1 2 0 0 枚を使用。
 - ・ 地元産の玄昌石を使用。加工及び磨きは住民の方々のご協力をいただいた。



標準断面図